

かなや 金谷コース

金谷のなりたち

古くは鍛冶屋(加治屋)村と呼ばれ鍛冶屋が多く存在していたと言われるが、三河国加茂郡八條院領高橋荘(衣郷)の一つとして治められていた。1300年頃(鎌倉期後期)荘園領主中條氏が入部し衣城を築造し荘園の本格的経営が始まる。以来三百年、衣郷の為政の中心となっていたが、三宅氏の挙母藩起藩にともない、衣郷から分村され金谷の名が称された。

距離／約1.5km 所要時間／約45分



どこかなつかしく
心ときめく散歩みちです

① 金谷(衣)城址(金谷町1丁目)

市内でも最も古い城の一つで、近世の挙母城(桜城、七州城)の前身。鎌倉末期に衣の地を治めた中條景長により築城され、中條氏が代々居城したが、1561年織田軍により落城。その後は織田氏、徳川氏の支配下にあった。1604年三宅氏の衣(挙母)藩起藩にともない、挙母盆地に陣屋(桜城)が築城され、金谷城は廃城となり三百年の歴史を終えることとなった。

豆知識 「織田信長像」中條氏滅亡後、金谷城主となった織田家臣・余語正勝は、信長の一周忌に際し「信長の肖像画」を、信長が焼き払わせた長興寺に寄進している。その画像は、現在も国の重要文化財として長興寺に保存されている。



② 勝手神社(金谷町1丁目)

1268年、中條氏が衣の地への入部にともない守神として勝手神社を建立する。この神社の総本社は、奈良県吉野町に鎮守した。祭神は木花咲耶姫命で、ご神徳は先勝運、悪魔降伏、開運の神また花・田畑・園芸の神でもある。金谷全域を氏子としており、末社に天照皇大神宮、豊受大神宮、金毘羅大社、津島神社、秋葉神社の五社を祀っている。

豆知識 「木花咲耶姫命」天照大神が天孫降臨に使わした瓊々杵命が、国つ神(「天つ神」)に対して天孫降臨以前から国土に土着していた神の木花咲耶姫命と結び、三柱(海幸彦、山幸彦(初代天皇・神武天皇はその孫)を産んだ。【古事記】

「天照皇大神宮」天照大神を祀る神社。天照大神は太陽を神格化した神で、天皇家の祖とされている。総社は伊勢神宮。

「豊受大神宮」天照大神の食を世話する女神の豊受大神を祀る神社。穀物の神として伊勢神宮外宮に祀られている。

「金毘羅大社」香川県琴平の金刀比羅宮を総社とする神社。祭神は海上交通の守り神として知られる大物主命。大物主は蛇神であり水神または雷神としての性格を持ち、稲作豊穰、疫病除け、酒造り(醸造)などの神として篤い信仰を集めている。

「津島神社」愛知県津島市にある神社。主宰神は須佐之男命。古くは除夜、授福の神である牛頭天王社とも呼ばれ、京都の八坂神社と並ぶ天王社として崇められた。織田家、豊臣家・徳川家から格別の崇敬を受け東海各地中心に多数の分社が造られた。

「秋葉神社」日本全国に点在する神社。神仏習合の火伏せの神として広く信仰された秋葉大権現を祭神とする神社。



③ 金谷庚申三光寺(金谷町5丁目)

真言宗醍醐派準別格本山金谷閣三光寺。創建時期は1018年と伝えられるが、織田軍の焼き打ちに遭い、1600年秋応法師により再建される。爾来、挙母藩主の信仰も厚かった。「金谷の庚申さん」として親しまれ近隣の参拝者で賑っている。本尊は梵天帝釈青面金剛王(弘法大師御作)で、本堂には「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の像が安置され、我々に無言の教を諭している。

豆知識 「庚申信仰」中国道教の「三尸説」と日本の民間信仰が絡み合った信仰で、庚申の日には夜慎ましくして眠らずに過ごすという風習が広まった。仏教では庚申の本尊を青面金剛および帝釈天とし、庚申の日を帝釈天の縁日としている。



④ 福満寺(金谷町5丁目)

浄土宗総本山知恩院の直末寺。1714年に田地山福満寺の寺号を公許される。本尊の阿弥陀如来の大きさ(総高270cm)は、近郷では類を見ないものである。また、鐘楼堂は奥田国三郎の作で、屋根裏の野物の組み方が実に見事で、一見の価値がある。

豆知識 「阿弥陀如来」大乘仏教の如来の一つで、浄土宗・浄土真宗の本尊とされている。西方の極楽という仏国土(極楽浄土)で説法をし、一切の衆生救済を本願しているとされている。



⑤ 弘法堂(金谷町3丁目)

弘法堂には三体の像が祀られている。中央の像は馬頭観音で、道中の安全を願い安置されたもの。右は如意輪観音で、迷い悩んでいる衆生を救う仏様。左は弘法大師像で、毎年旧暦の三月二十一日の命日には法要が営まれ、多くの人々からお菓子や果物が供えられ、子どもたちはお供えのお下がりを楽しめる。

豆知識 「弘法大師」平安時代初期に中国より真言密教をもたらした真言宗の開祖・空海のこと。能書家としても知られ、日本の三筆の1人に数えられる。大師に関する伝説は、寺院の建立や仏像などの彫刻あるいは聖水など多岐にわたり、北海道を除く日本各地にある。日本の温泉の3分の1くらいは、空海が役行者が見つけたことになっている。



⑥ 高木稲荷(金谷町1丁目)

稲荷は金谷城の城跡にある。織田軍との戦いに敗れ、放浪の身となった金谷城主中條常隆と出会い互いの没後の菩提を起請した浪士高木某は、病死した常隆との約束を果たすため挙母郷に至るが病床の人となる。起請を果たせず困っていたある夜、夢に老いた白狐が現れ起請を約束し、ついに宿願を遂げることができた。高木某は「汝を稲荷神」として崇めることを誓約し、城跡に社を創建祭祀した。世人これを称して、高木稲荷という。



れきし 歴史の香る 散歩みち あさひがおか 朝日丘地域 かなや 金谷コース

WE LOVE とよた

朝日丘まちづくり委員会

あさひがおかちいきぜんたいず

朝日丘地域全体図

こもろじょう しちしゅうじょう
挙母城（七州城）
 最初の城は衣衣谷城で延慶3年（1310年）足利尊氏の家臣中条景長が衣衣谷を築く。のち慶長9年（1604年）三宅康貞が陣屋（桜城）を構え、一時天領となるが、天和1年（1681年）本多忠利が陣屋を継ぎ「挙母」に改名。寛延2年（1749年）内藤政苗が陣屋に広大な城を築城するが、矢作川の洪水で断念。天明2年（1782年）童子山へ移転し、同5年に本丸城郭整うが、外郭は未完成のまま明治4年（1871年）挙母城廃城となり、公売される。

はん れい
凡 例
 三軒屋コース
 小坂コース
 樹木コース
 金谷コース
 下林コース
 下市場コース
 長興寺コース
 歴史の香る散策コース（三軒屋・小坂コース）
 歴史の香る散策コース（樹木・金谷コース）
 枝下緑道コース（下市場・長興寺・下林コース）
 陽だまり

① 陽だまり散歩みち（各自治区コース）
 地域の方々が無理なく歩ける身近な散歩道とし、近隣住民が気軽に集い、おしゃべりができるたまり場（陽だまり）をコース途中に設けます。公園や神社など、トイレや休憩施設があるところを陽だまりとしませんが、陽だまりによっては、新たにベンチや東屋などを設置します。

② 歴史の香る散策コース
 地域の中でも、多くの歴史的・文化的な地域資源がある金谷～樹木地区、小坂～三軒屋地区を巡るコース。樹木の古い町並み、挙母城（七州城）、毘森公園などの見所があります。「三軒屋・小坂コース」と「樹木・金谷コース」の2コースです。

③ 枝下緑道コース
 枝下緑道を経由して下市場～長興寺～下林を巡るコースです。桜並木や水辺などの自然、長興寺をはじめとする寺社などの見所があります。

至赤池、猿投
 川端公園
 ヤハギ緑化センター
 文部部小
 豊田北高
 中央公園
 豊田スタジアム
 スカイホール豊田
 元城小文
 豊田東高
 長興寺
 八柱神社
 消防本部
 長興寺グラウンド
 豊田市終末処理場跡
 食肉センター
 秋葉神社
 至岡崎
 山之手子育て支援センター
 至知立